

決定！ 第24回東川賞

海外作家賞に歴代2人目のブラジル人写真家

国際写真フェスティバル「東川町フォト・フェスタ2008」の第24回東川賞4人の受賞者が決定しました。海外作家賞は、ブラジル人写真家、クラウス・ミッテルドルフ氏、国内作家賞は、榎橋朝子氏（東京都在住）、新人賞は、澤田知子氏（米国ニューヨーク市在住）、特別賞は小畑雄嗣氏（東京都在住）が受賞しました。授賞式、レセプションは8月2日（土）、農村環境改善センターで行います。同日、文化ギャラリーで受賞者4氏の作品展も開幕します。

クラウス・ミッテルドルフ氏に海外作家賞

今年、日本人ブラジル移住100周年の「日本ブラジル交流年」を記念して、ブラジルから選ばれました。ブラジルからの受賞は歴代2人目です。

受賞対象は、「THE LAST CRY」（1998年）、「INTROVISION」（2006年）の両作品制作に対して。

写真集「THE LAST CRY」は、映画の一場面のようなシーケンスを多用し、叫び声を上げるモデルの一連の動きを撮影したものです。

「水の中で泳ぐ人や叫ぶ姿の一瞬の表情をとらえているが、近代的な自然の記録としての写真ではなく、映画を制作するようなステジドフォトの技法で制作されている。その写真は泳ぐ人にまつわる水やモデルの表情が、接写したダイナミックな画面構成とともに瞬間が固定さ

れ悲しみや恐怖、驚きなどの普遍的な感情を描き出す。それはまるで映画『戦艦ポチョムキン』のオデッサ階段における乳母車の転落シーンをほうふつとさせるようだ」（佐藤時啓氏の講評から）と評されています。

国内作家賞は榎橋朝子氏

受賞対象は、作品「half awake and half asleep in the water」と、同名展（ツアイト・フォトサロン（東京））。

「水の中から半分水面に配置した構図で写すことにより、同じように日常的な日本中の風景を自身の風景として捉えることに成功した。水面からという独特な視点は、不安定な異界としての都市を描き出した。その風景は平凡であればあるほど、榎橋の写真によって極めて新鮮な風景に置き換えられる。今回集大成としての榎橋ワールドはまさに写真芸術と呼

べるものであり国内作家賞としてふさわしい」（佐藤氏講評）と評価を得ました。

新人賞には澤田知子氏

作品「ID400」以降の一連の作品制作に対して。

海外での旺盛な活動を踏まえ、応援の意味で新人作家賞の受賞となりました。

「セルフポートレートは古典的なテーマであり、また自らを対象として作品化するアーティストも多い。その中で執拗なまでの制作意欲やコスプレ的な作業量は群を抜いている。その作品群から現代の日本の社会状況を風刺的に読み取ることも出来る。海外での活躍も含めて今後さらなる発展を期待したい」（佐藤氏講評）と評されました。

本道由来の特別賞は小畑雄嗣氏

受賞対象となった写真集「二月」（W

inter tale）（2006年、蒼穹社刊）は、スケートのイメージを骨格として雪の結晶が象徴的に配置されています。

「（冬という季節の中に）厳しさの一瞬の神々しさを捕える事ができれば、それは美に変換され多くが観賞可能である。数年にわたるスケートなどの取材の間、雪の結晶に興味を覚え、撮影を試みる。そして苦勞の末にその姿を写真作品として捉える事に成功する。厳しい環境の中に写真家としての美の発見を試みる力量とまたその新鮮な視点は普遍性を持っている」（佐藤氏講評）と評されました。

本年度東川賞審査委員会は、2月アルカディア市ヶ谷（東京都千代田区九段北）で開かれました。

当初からの監事委員、平木収氏と筑紫哲也、杉浦康平両審査委員の3氏が任期満了で退任。代わって浅葉克己、平野啓一郎両氏が審査委員に就任しました。

昨年度から審査に参加している野町和嘉、笠原美智子両氏に加え、岡部あおみ、山岸享子、佐藤時啓3氏を加えた7氏委員の審査となりました。

審査委員は次のとおりです（50音順、敬称略）。

- ▼浅葉克己（グラフィックデザイナー）
- ▼岡部あおみ（美術評論家）▼笠原美智子（写真評論家）▼佐藤時啓（写真家）
- ▼野町和嘉（同）▼平野啓一郎（作家）
- ▼山岸享子（写真キュレーター）